

設立趣旨書

20世紀は近代技術の隆盛によって、世界の多くの市民を巻き込んだ悲惨な戦争を生んできました。日本でも、近隣のアジア諸国に戦禍を与え、空襲や原爆などにより多くの戦死者を出した第2次世界大戦を経験しました。そうしたなかで「再び戦争を起こさない」という強い意志と覚悟をもって平和と民主主義に基づく憲法が制定されました。結果的に日本では直接的な戦禍を免れて経済的な繁栄を続け、多くの便利で快適な生活を手に入れました。また、地縁・血縁による地域社会が崩壊し封建的な束縛から解放されるなかで、自分の生き方を自らの意志で選択できる社会となってきました。しかし今、私たちは幸せを実感できているのでしょうか。

効率優先の経済システムによって地球は回復しがたい環境破壊におかされています。また、集団を作り育てることが敬遠され人と人との関係は希薄となり、社会のなかでお互いを気遣い助け合う力が瘡痍しているかに見えます。最も身近な近隣のことから世界で起きている戦争による飢餓や圧制に至るまで、私たちの想像力は枯れかかっているのかもしれない。

演劇は多くの人手と費用が必要でありながら、空間と観客を限定するため経済的には恵まれない芸術です。俳優は稽古や本番で拘束される時間が長く、また一度幕を開けたら何があっても幕が下りるまでを務めなければなりません。観客は定められた舞台に想像力を駆使して向かい合い、劇場は舞台と客席が一緒になって喜び、悲しみ、慈しみ、怒り、憐れみと、人それぞれの感動を胸に刻みつける「場」となるのです。これほどまでに手間がかけられ、手作りを実感できる芸術が他にあるのでしょうか。

こうした演劇の素晴らしさを普及するため、あらゆる圧迫や困難と闘いながら一貫して反戦・平和の精神を貫き、舞台を作り続けてきた「新劇運動」の流れを汲む演劇人たちの努力がありました。私たちの「演劇鑑賞運動」もまたそこから誕生してきたのです。

私たちは見通しの立ちにくい状況のなかで時としてくじけそうになります。そんなときに演劇は、生きていくことへの勇気と励ましを与えてくれました。こうした「演劇」を通して、私たちは生きる意味を自らに問い返しながらい、豊かな人間性を目指す社会を実現したいと願っています。私たちは優れた演劇の創造と普及を目指す創造団体と連帯し、日本演劇の民主的発展を目指していきます。

1988年「湘南演劇鑑賞会」を設立、1994年鎌倉、藤沢、茅ヶ崎と「湘南演劇鑑賞協議会」を設立、2000年にはNPO法人格を取得しました。創立以来、観客と主催者の垣根のない組織として、人と人との絆を深めてきました。一人ひとりの観劇要望には

なく、仲間を誘って作るサークルに向き合って運動を進めてきました。一回限りのチケットサービスではなく見続けることで、演劇を見る心を育ててきました。

私たちは「ホールのある町ごとに鑑賞会を」という運動の中で生まれ、演劇が生活と密着した文化であってほしいと活動を続けてきました。1988年の設立当初、鎌倉には演劇公演を実現できるホールはありませんでした。1994年に鎌倉芸術館が開館し、この地域で演劇を見続ける文化を育ててきました。

そうした中で、会場問題や観劇条件など、地域に限定した様々な課題が浮き彫りとなり、「湘南演劇鑑賞協議会」という広域での取り組みから、あらためて鎌倉の地に根ざした活動の大切さを痛感しました。

私たちの主な活動の場である鎌倉芸術館を拠点に市内の文化団体と協力し、未来に向かって夢と希望を語り合える人間関係を構築し、文化性の豊かな街づくりを目指していきます。

地域に根ざした活動を進めていくため、ここにNPO法人鎌倉演劇鑑賞会を設立します。

2008年9月24日

NPO 法人鎌倉演劇鑑賞会
設立代表者 中村都子